

美羽「だから、どっちが先にキノコをたくさん見つかるか競争なのっ！  
美羽が勝ったら、この階段を通して！」

おとめちゃん「なんだその勝負ぶ。  
くだらない……」

美羽「自信がないの？」

おとめちゃん「なにっ！？」

美羽「ぶたさんの美羽に負けるのが怖いの？  
わんちゃんのかせに……」

おとめちゃん「ばっ、ばかにするなっ！  
鼻が利く勝負で、犬がぶたに負けるわけないだろっ！  
やってやる！」

ななちゃん王子「それではよ〜い……」

※「何故か、審判をさせられているななちゃん王子。」

おとめちゃん「負けるわけがねえ……！  
この犬であるこのオレがっ……！  
ふっふっふ……  
目にも見せてやるぜ……！  
美羽のやつめ……！」

ななちゃん王子「始めっ！」

おとめちゃん「わおおお〜〜んっ！！」

※猛ダッシュでその辺に生えているキノコを探し出す  
おとめちゃん。  
美羽も一生懸命探している。

美羽「くんくん……、見つけたっ！」

美羽「こっちにも見つけたのっ！」

美羽「あ〜〜っ！ここにも！」

※美羽がどんどんキノコを積み上げていくが、  
その時、おとめちゃんは美羽ちゃんを超えて  
物足りない量のキノコを積み上げている。

美羽「え〜〜んっ！たいへんなのっ！  
このままじゃ負けちゃうのっ！」

なびたん「美羽ちゃん！がんばって！」

おとめちゃん「ほらほらどうした美羽〜〜んっ！  
くっくっ……！」

※かなりキノコを積み上げていて、余裕な表情で  
ニヤニヤと、美羽の必死な姿を見ているおとめちゃん。  
※おとめちゃんの心の声

ふっふっふ……！

ついさっき、オレの手下の動物どもに  
手分けして探させたのさ……！

※ウサギやリスやアライグマ、など。

勝負なんて勝たなきゃ意味がねえ……！  
なにをしようが勝てばいい……！  
勝つことこそが勝負なのさ……！

おとめちゃん「やっぱりお前はいつまでたっても  
やってることがびっこ級だな！」

美羽「そんなことないもんっ！」

おとめちゃん「そんなコスプレしたって、しよせんお前は  
そこまでだったってことさ！」

美羽「むう！」

コスプレじゃないよ！  
魔法少女だもんっ！

……！」

※美羽が自分の姿を見渡している。

美羽「そう……、魔法少女……！」

そうだよ、美羽は……あゆコロちゃんど心をひとつにした……  
魔法少女なのっ！」

●ボウッ！

※その時、目の前の木の根元の部分にあったキノコが光り出した。

おとめちゃん「なっ……なんだっ！？」

美羽「キノコが……光ってるの！」

なびたん「そうだよ、美羽ちゃん！  
キミは今、あゆコロちゃんの魔法少女なんだ！」

●ポポポポポッ！

あたり一帯の、キノコが光り出す。

おとめちゃん「なっ、なににいいいいい〜〜んっ！！」

美羽「魔法少女の力は……こんなもんじゃないのっ！」

美羽「あゆコロちゃんは……、3キロ先のおいしい食べ物も  
いち早くキャッチしちゃうんだから！」

※あたり一帯の光ったキノコがふわふわと浮かび上がる。

美羽「それ〜〜んっ！！」

●ひゅーっ！

※その美羽の合図とともに、そのたぐさんのキノコは  
綺麗な流星のように美羽ちゃんの元を集まってくる。

その様相は、まるで森全体が満天の星空のよう。

おとめちゃんの集めたキノコよりも、何倍ものキノコが  
美羽ちゃんの目の前に積み上げられる。

ななちゃん王子「美羽姫の勝ち〜〜んっ！！」

※なびたんが、バチバチと手を叩いて祝福している。

おとめちゃん「くっそ〜〜んっ！！  
こんなのインチキだっ！  
わおお〜〜んっ！」

●ばくっ！

※おとめちゃんが、美羽が見つけたキノコを  
ばくばく食べていくおとめちゃん。

美羽「あ〜〜んっ！」

おとめちゃん「こんなキノコ、全部食べっしてやるっ！  
がぶがぶ……、今のはなしっ！  
もう一回勝負だ！もぐもぐ  
今度こそ……」

むぶっ！！

いた……！

いたたたっ！！！！

おとめちゃん「ぐぐぐ〜〜んっ！！  
トっ……トイレ……っ！！」

※一目散に去っていく、おとめちゃん。

美羽「あ……、当たっちゃったみたいなの……」

●ほんっ！

(※おとめちゃんに勝利したので、魔法少女の変身が解ける)

ななちゃん「なっ、なんとっ！  
お見事でしたぞっ！」

美羽「ななちゃん王子っ！  
安心してっ！  
これでもこの物語は大丈夫……」

ななちゃん王子「なんとたくましいでしょう！  
化け犬に立ち向かう、その恐れを知らぬ勇氣！  
私は、今までこんな心が震えたことは  
ありませんっ！」

※キノコにつられて、なんと、あゆコロちゃんが  
その場にいた状態。

そのあゆコロちゃんに語り始める、ななちゃん王子。

美羽「……ほへっ！？」

あゆコロちゃん「？」

ななちゃん王子「見ての通り、  
私は少々おくびょうなところがありまして……、  
いつも自分自身を愛えたいと  
思っていました」

美羽「あの……、ななちゃん王子？  
活躍したのは、美羽じゃ……」

ななちゃん王子「いや、美羽姫はこの方の  
力を借りたに過ぎません」

美羽「え……、ええっ！？」

ななちゃん王子「あゆコロちゃん殿……と  
もうしましたか。

いや、この世の全ての民を救うべく  
この世に生を授かったであらう  
こぶたちやんな勇者……あゆコロちゃんよ。

よくぞ、このわが城の隣から化け犬を  
追い出してくれました。

もし、よろしければ私の城に住み  
すえながら私のそばにいて頂けませんか」

美羽「えええええっ！？」

美羽「ちよつと、ななちゃん王子っ！  
それは美羽とじゃ……」

ななちゃん王子「勇者あゆコロちゃん。  
あなたの勇氣を少しでも、この私に付けてください。

あなたのそばにただで、きつと私も  
頭に鬚を乗つけることが出来る勇者になれる……。

そんな気がするのです」

美羽「え〜〜んっ！？  
なにその展開〜〜んっ！！」

ななちゃん王子「さあ、パーティーの続きをしましょう。  
今日は輝かしき勇者あゆコロちゃん、生誕の日。  
キノコの天ぷらに、キノコの Pasta……、  
キノコの煮付けに、キノコラーメン……、

そうそう、我が城の紋章もキノコにいたしましょう。

あとは……、ええと……、  
今のところこれ以上思いつきませんが……、

最高のキノコつばいパーティー会場で、  
極上のキノコダンスを華やかにおもてなしをさせていただきます。  
ささ、早くわが城へ」

※気を良くしたのか、一緒についていくあゆコロちゃん。

美羽「ちよつと、ちよつと待って！  
美羽も行く！  
美羽も一緒に行くのっ！！」

ななちゃん王子「それは出来ません。  
これから心を鍛えようとしている私に  
恋愛など不要。  
すいません、美羽姫……！」

美羽「ほええええ〜〜んっ！？」

なびたん「あらら」

※あゆコロちゃんと、ななちゃん王子がお城へ  
入っていく。

美羽「ふえ〜〜んっ！  
結局、物語がめちゃくちゃになっちゃったの〜！」

美羽はいつもひとりぼっち。

思わず涙がぼろりと出ちゃう。

美羽「こんなのぜんぜん素敵じゃないのっ……、  
もうなんなの〜〜んっ！！？」

◆突然、真っ暗になる。

美羽「……え……、  
ここは……？」

なびたん「……あれ？」

？？「美羽ちゃん……」

美羽「えっ……？」

？？「ねえ、美羽ちゃん。涙を拭いて」

美羽「……だれ？」

？？「こんなことで、よくよしてちゃ駄目だよ」

美羽「だれなの……？」

？？「どんなことがあっても、  
美羽ちゃんは、キラキラ笑顔の美羽ちゃんでなきゃ」

？？「ねえ……目の前の扉が見えるから」

美羽「……とびら……？」

なびたん「あっ、美羽ちゃん、あそこ！」

※美羽ちゃんの目の前に、  
突然大きなふっかつちやんの扉が出現する。

？？「それは物語の扉……、  
これからあなたは、もっといっぱい  
色々な物語の扉を開けることになるわ……。  
ゆるキャラ達と共に……」

美羽「いっぱいの……物語……？」

？？「どんなに辛いことがあっても、  
きつとあなたに、たぐさんの笑顔と勇氣をくれるわ」

美羽「……美羽に……？」

？？「この物語は、あなたの物語」  
さあ、次の物語の扉を……開けて……」

美羽「……うん……」

◆ぎぎい……(※とびらを開ける音)

なびたん「ありがとう……。  
……そして、ごめんね、美羽ちゃん」

◆バァア……(※とびらの隙間から光がこぼれ出す)

美羽「……あつ……！」

